

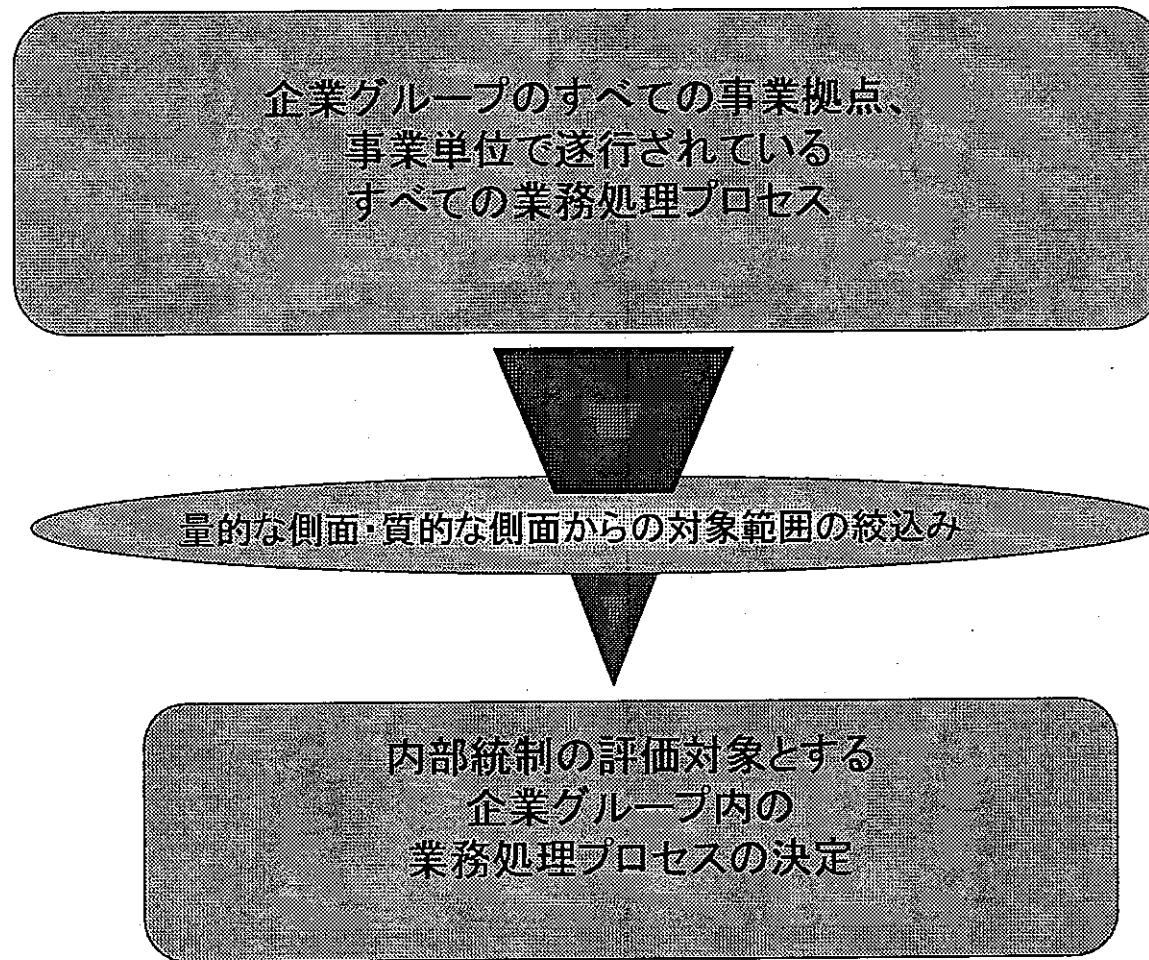
財務報告に係わる内部統制の 評価範囲の決定

鈴木輝夫

財務報告に係る内部統制の評価範囲決定

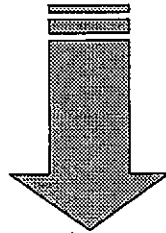
- 1) 連結財務諸表と重要な勘定科目と注記の選定
- 2) 対象事業拠点、子会社の選定
- 3) 業務レベルの統制の評価範囲：対象業務プロセスの決定

リスクアプローチの手法による評価範囲の決定



量的な側面及び質的な側面からの 対象範囲の絞込み

質的な側面からの
対象範囲の絞込み



潜在的なビジネスリスクの内在する業務処理
プロセスは対象範囲として網羅する
企業グループ全体で考慮する

量的な側面からの
対象範囲の絞込み



連結財務諸表を構成する各開示項目毎に
どの程度のカバー率をあげるか？
その際には、各勘定科目毎の質的な重要性
を合わせて考慮する

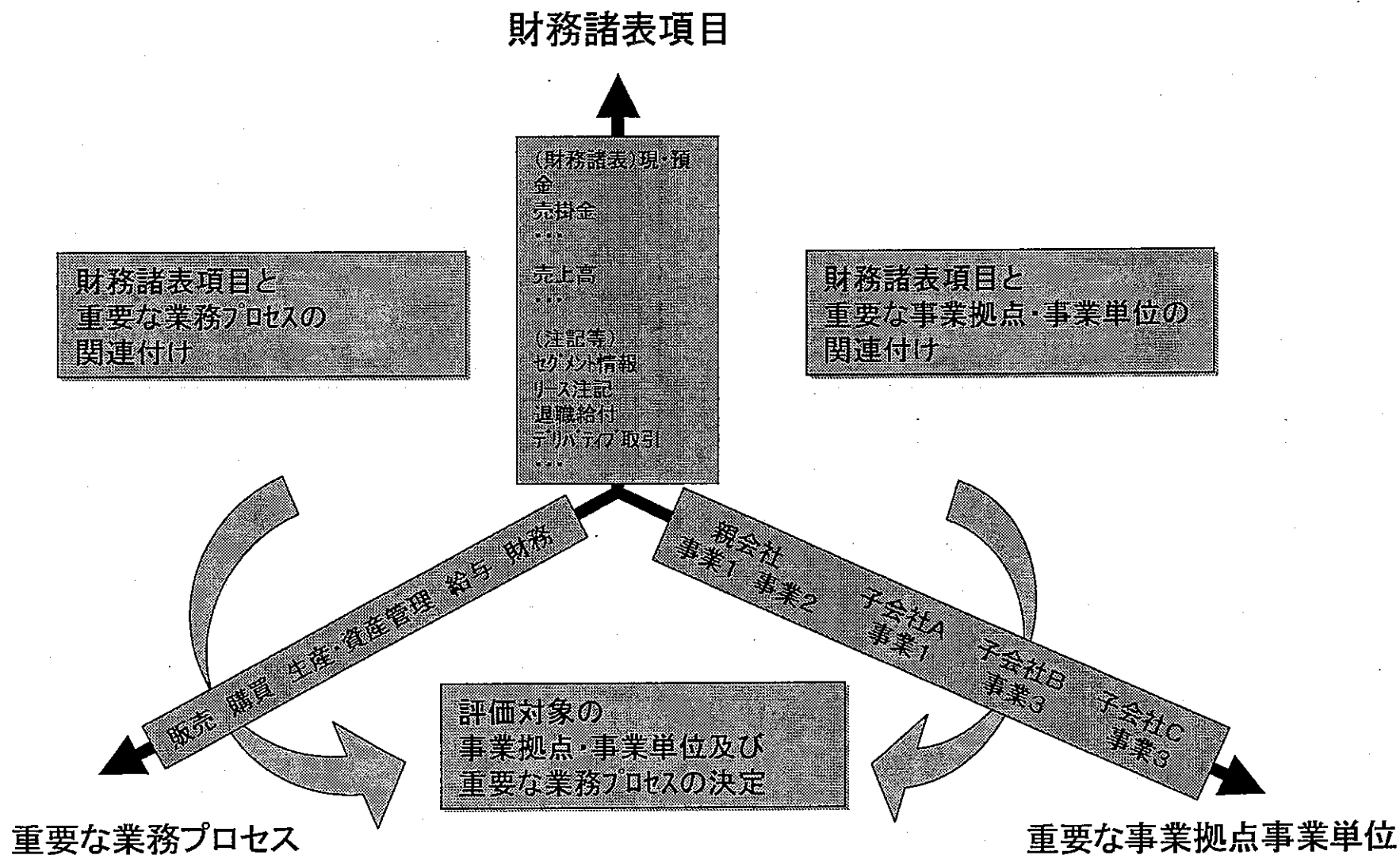
財務諸表の勘定科目の質的及び金額的重要性

連結財務諸表 開示項目	連結FS 数値	B/S: 総資産比 P/L: 売上比	量的重 要性 B/S 5%以上 P/L 5%以上	質的重要性								重要性 の総合 判定	
				価格変 動リスク	陳腐化 リスク	計算の 複雑性	恣意性 判断・ 見積り	不正リ スク	取引件 数	期間帰 属エラー のリスク	例外・ 特殊取 引		
<B/S>			5%以上										
現金及び預金	100,000	25.0	○					○	○				A
売上債権													
売掛金	30,000	7.5	○						○	○			A
受取手形	20,000	5.0	○										B
短期貸付金	1,000	0.3											C
貸倒引当金	△20,000	5.0	○			○	○						A
有形固定資産	200,000	50.0	○										B
...													
総資産	400,000	100.0											
<P/L>													
売上高	900,000	100.0	○						○	○			A
...													
<C/F計算書													

重要性の総合判定


- A 量的にも質的にも重要な勘定
- B 量的には重要だが、質的には重要ではない勘定
- C 量的にも質的にも重要ではない勘定


公表財務諸表・重要な事業拠点・ 重要な業務プロセスの関係

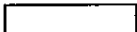


連結財務諸表と重要な事業拠点の関連付け

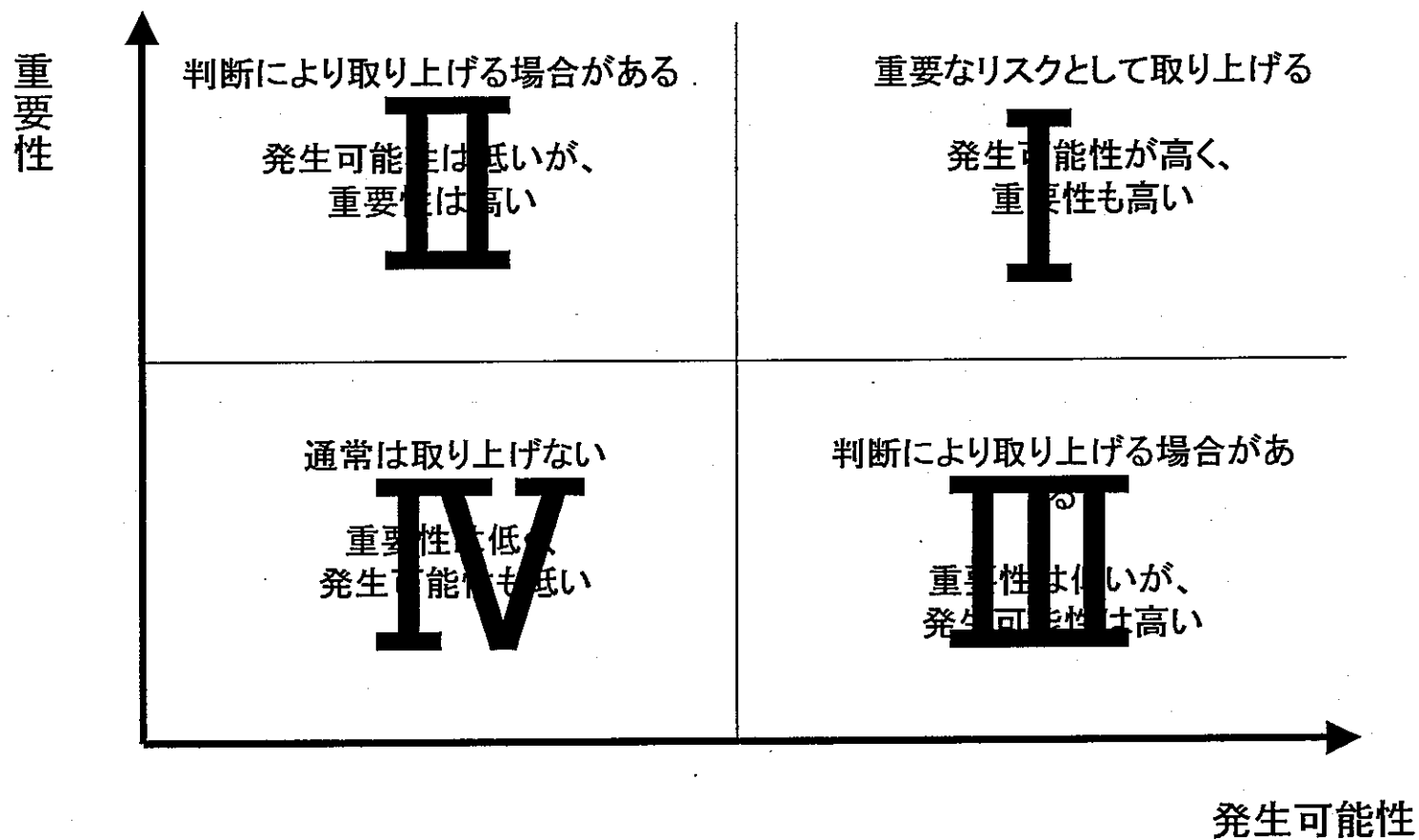
連結財務諸表 開示項目	連結FS 数値	勘定科目重要性			親会社			子会社A	子会社B	子会社C	合計	対象範 囲合計	カバー率
		量的	質的	総合	全社	事業1	事業2	事業1	事業3	事業4			
	(百万円)	(Y/N)	(Y/N)		(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(%)
<B/S>													
現金及び預金	100,000	Y	Y	A	60,000			30,000	5,000	5,000	100,000	90,000	90
売上債権													
売掛金	30,000	Y	Y	A		18,000	500	7,000	2,000	2,500	30,000	27,000	90
受取手形	20,000	Y		B		12,000	500	4,000	2,000	1,500	20,000	12,000	60
短期貸付金	1,000			C	700			100	200		1,000	0	0
貸倒引当金	△20,000	Y	Y	A		△13,000	△500	△4,000	△2,000	△500	△20,000	△19,000	95
有形固定資産	200,000	Y		B		90,000	40,000	15,000	15,000	40,000	200,000	170,000	85
...													
<P/L>													
売上高	900,000	Y	Y	A		450,000	50,000	320,000	40,000	40,000	810,000	900,000	90
...													
<C/F計算書>													
<注記>													
セグメント情報	900,000	Y	Y	A		450,000	50,000	320,000	40,000	40,000	810,000	900,000	90
リース	200,000	Y		B		100,000	30,000	20,000	20,000	50,000	200,000	160,000	80
....													

 金額的な重要性及び質的な重要性(ビジネスリスク要因)の双方から選定

 金額的な重要性から対象に選定

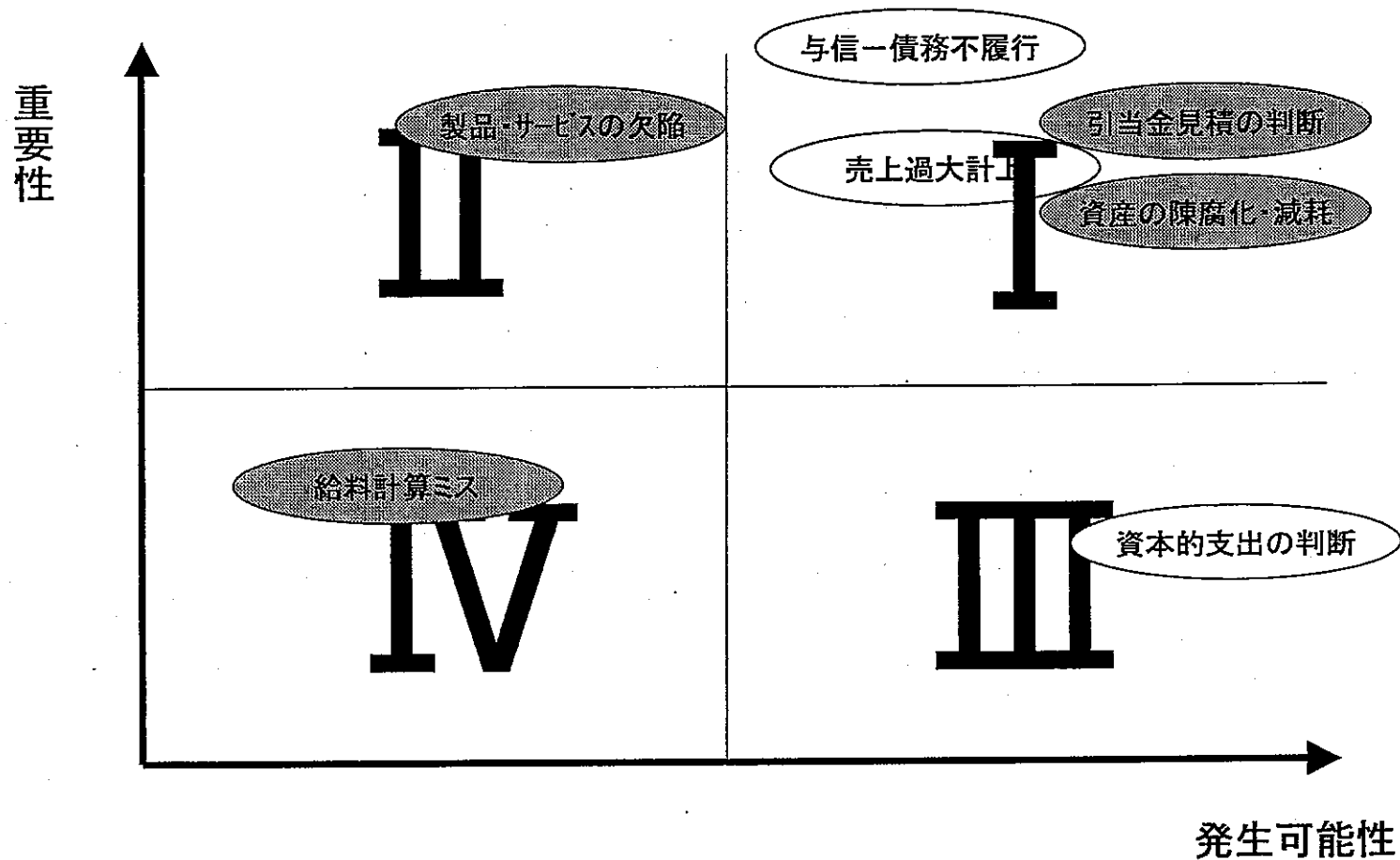
 質的な重要性(ビジネスリスク要因)から選定

リスクマップを用いた質的に重要なリスクの絞り込み



A社の重要な質的なリスクの絞込み事例

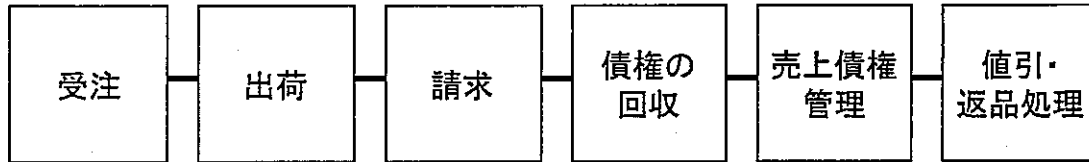
A社・事業1のリスクマップ



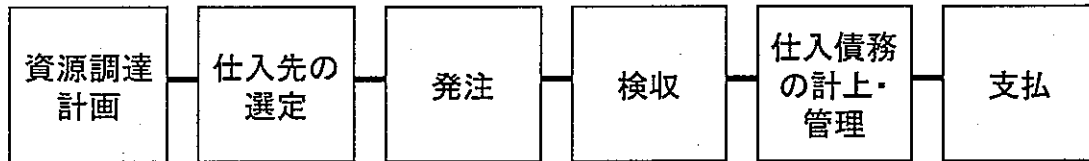
業務プロセスと財務報告プロセス

業務プロセス

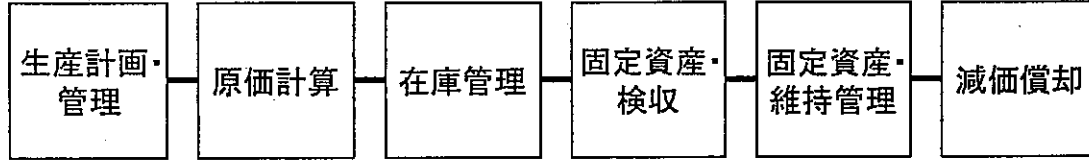
販売プロセス



購買プロセス



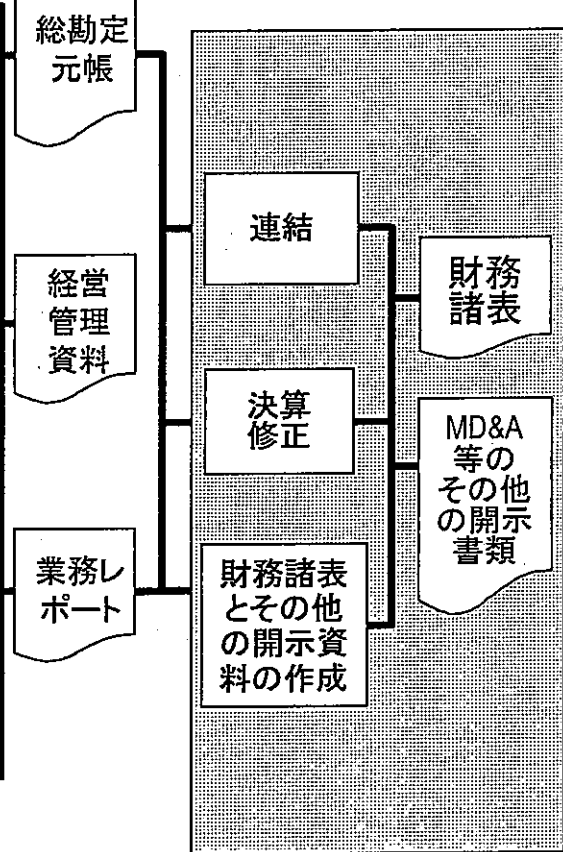
生産・資産管理プロセス



その他のプロセス

- ・ 財務活動(投資、資金調達など)
- ・ 人事
- ・
- ・ 研究開発活動
- ・ 法務
- ・

財務報告プロセス



連結財務諸表と重要な業務プロセスのマッピング

連結財務諸表 開示項目	連結ES 数値	勘定科目重要性			販売	購買	生産・ 資産管理	研究開発	給与	財務
		量的	質的	総合						
	(百万円)	(Y/N)	(Y/N)							
<B/S>										
現金及び預金	100,000	Y	Y	A	△	△	△	△	△	○
売上債権										
売掛金	30,000	Y	Y	A	○					△
受取手形	20,000	Y		B	○					△
短期貸付金	1,000			C						○
貸倒引当金	△20,000	Y	Y	A	○					
有形固定資産	200,000	Y		B		△	○			△
...										
<P/L>										
売上高	900,000	Y	Y	A	○					
...										
<C/F計算書 >										
<注記>										
セグメント情報	900,000	Y	Y	A	○					
リース	200,000	Y		B		△	○			△
.....										

上記表中、△は該当する取引サイクルの一部のサブプロセスに関連することを表している。

重要な事業拠点と重要な業務プロセスの関連付け

会社	事業の種類	販売	購買	生産・ 資産管理	研究開発	給与	財務
親会社	全社						○
	事業1	○	○	○			
	事業2			○			
子会社A	事業1	○	○	○			○
子会社B	事業3	○					
子会社C	事業4			○			

- ・前提として、研究開発及び人事管理は親会社の全社機能として企業グループ全体の管理を行っているものとする。
- ・親会社の事業2と、子会社Cは、有形固定資産勘定のみ重要性が認められるため、「固定資産管理」の業務プロセス及び固定資産の取得に関連する購買の一部サブプロセス及び財務の一部サブプロセス(出金プロセス)を対象とする。
- ・子会社Bは、同社のビジネスリスクを加味して販売サイクルを対象とする。